



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	信用機構の政治経済学 : 商人的機構の歴史と論理 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	田中, 英明
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(経済学)
Dissertation Number	乙第7029号
Issue Date	2017-09-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/67801
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Hideaki_Tanaka_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（経済学）

氏名：田中 英明

審査委員	主査	教授	岡部 洋實
	副査	教授	佐々木憲介
	副査	教授	竹内 晴夫（愛知大学）
	副査	特任教授	竹野内真樹（北星学園大学）

学位論文題名

信用機構の政治経済学——商人的機構の歴史と論理——

本論文は、現実の複雑多様な資本主義的な市場機構の根柢にある最も基本的な諸関係を資本主義に内在的なものと捉え、金融の領域を例に、その特性を解明しようとするものである。すなわち、一方では金融機構を、資本主義以前の商人間関係に基づく（＝商品経済特有の）ものとして把握し、他方ではそれを、資本主義の原理のうちに再構成することでもって、それが、資本による機構形成・組織化の作用によって生成されたものであることを明らかにする。申請者の問題関心は、資本主義的な市場機構が、他の社会領域とのつながりもちつつも、それ自身として組織化を展開することを明らかにする点にある。

第1部「商人的機構の歴史的展開」は、中世ヨーロッパにおける決済・信用機構の、商品経済的な合理性を明らかにすることを課題とする。第1章「商人的機構の『原型』」は、12・3世紀のジェノヴァを中心とする貿易金融・資金移転の事例を取り上げ、為替契約と商人間分業との結びつきのうちに商品経済的な組織化の論理が作用していたことを明らかにしている。第2章「両替商と商人＝銀行家」では、両替商と商人＝銀行家とが商人間の決済・信用機構を担ったことが、第3章「為替手形の変容と決済・信用機構の革新」では、17・8世紀のアムステルダム振替銀行を核とする国際的な決済・信用機構の革新性が明らかにされる。第4章「ロンドンを中心とした決済・信用機構の『近代性』」では、同時期のロンドンの「近代性」が、アムステルダムを中心とした国際的な決済・信用機構との関連で解明されるとともに、それが、ロンドンを中心とするイギリス国内経済の発展に結びついたことが示されている。なお、商品経済的な関係が共同体から排除された商人たちの活動によって生成されることを論じた補章1「商品の『資本性』」は、商品経済一般が有する特性の観点から、第1部を理論的に補完する位置にある。

第2部「信用機構の理論的展開」は、社会的生産を包摂した産業資本特有の機構編成動力と商人的な組織性との関係を考察した上で、資本主義的な市場機構としての

金融機構の理論的解明を課題とする。第5章「流通過程の不確定性」は、産業資本の準備金や流通費用の考察を通じて、一時的な取引関係と長期的安定的な取引関係それぞれの特性を検討している。第6章「商業資本の二類型」では、産業資本成立後に商業資本が主に担う商人的活動が、長期安定的な組織的關係を構築することが明らかにされ、第7章「商業信用の二類型」では、信用取引における一時的な信用取引と恒常的な取引それぞれの特性が、買い手・売り手双方の立場から考察されている。第8章「市場機構としての銀行信用」では、産業連関の定常性は、恒常的な取引関係を通じて、商業資本を含む諸資本の社会的結合として信用関係を形成するが、その組織化の限界が信用代位・共同準備機関として銀行資本を成立させることが説かれている。第9章「銀行間組織の二類型と中央銀行」では、中央銀行に至る垂直的な銀行組織が銀行間の垂直的な決済・信用機構として形成されること、他方で、銀行券が受信要請と決済等の貨幣取扱業務とを媒介すること、銀行間の多角的な決済・信用機構が、銀行間の相互融通の限界を補い「最後の貸し手」となることで、手形交換所や統一的決済機関等、水平的で公共性を有する銀行組織を形成することが説かれる。結論として、以上の組織化の二類型が中央銀行制度や信用機構を分析する際の理論的根拠となることが主張されている。

補章2「システムとしての銀行と信用創造」は、銀行の信用創造と流動性リスクとについて、システムとしての銀行およびそれに包摂される取引関係の性格の分析が必要なこと、資本の補填と再生産の円滑な進行とを前提とする信用創造は、銀行システムの「外部」の問題としても考察されるべきことを指摘して、第2部の発展的な課題の提示としている。

本研究の独自性は、資本主義的な金融機構が、諸資本の競争関係を維持しながら、商人的活動の論理に即して組織化されたものである点を、銀行間組織の二類型へと集約した点にある。これは、従来「制度」や「ルール」と呼ばれてきたものの生成の論理を解明する試みといえる。しかも、理論的研究を歴史事例でもって予め補強した点が、本論文の特徴である。論述から意味は明らかだが、「組織化」の定義をより明確にすべきであろうこと、商人資本的な活動が重視されたために、資本主義成立後について実証が十分とはいえないこと、垂直的な銀行組織と水平的なそれとの関係についてのより立ち入った検討が望まれることなどの難点はあるが、それらによって本論文の価値が損なわれるものではない。資本主義的な市場機構の特性を、金融の領域を例に解明した研究として、審査委員会は全員一致して、本論文が博士（経済学）の学位を授与されるに値する業績であると認める。